

大麦だより（第2号）

令和6年9月
J A 能 美
南加賀農林総合事務所

耕起から播種の一連の作業は、土壌条件のよい日に行い、一日で仕上げましょう！



- 稲の刈り株をフレールモア等で処理し、耕起時のトラクター走行速度を低速にして、耕起時の碎土率を向上させる。
- 雑草の多い圃場では播種する7日前頃までにプリグロックスL 100倍液（薬剤1ℓを水100ℓに希釈）を、10a当たり100ℓ散布する。
- 排水対策を徹底した上で、適期に適量を播種し、苗立数を確保する。

1. 種子消毒（黒穂病の防除）

薬 剤 名	処 理 方 法
ベンレートT水和剤 20	播種前に種子重量の0.5%を粉衣する。（種子1kgに対し、薬量5g）

2. 土づくり資材の散布（酸度矯正）

肥 料 名（いずれか）	10a当り施用量
カキ鉄エース	100kg～

- ① 麦は畑作物です。
必ず酸度矯正を行うこと。
- ② 最適pH6.5～7.0に近づけるため、必ず散布する。
- ③ 散布直後に播種可能。

3. 基肥・年内追肥の施用

	肥 料 名 (いずれか)		10a当り 施用量	成分量 (kg/10a)			備 考
				窒素	リン酸	加里	
基肥 一 発	大麦一発くん SL36	基肥	40kg	14.4	1.6	2.0	生育量に応じて越冬後に追肥が必要
	大麦一発 SK J-ト			14.0	1.6	1.6	
分 施	国産化成 444	基肥	40kg	5.6	5.6	5.6	年内追肥は11月中旬頃に散布 (播種後約1ヶ月) 融雪後さらに2～3回の追肥が必要
	硫安	追肥	10kg	2.1	—	—	

4. 播 種 播種速度を低速にし、碎土率を向上させ、除草剤の効果や苗立ちを高めましょう

早播きによる細麦粒の発生を避けるため、適期播種に努め、
播種時期およびほ場条件に応じて、播種量をコントロールしましょう。

基肥一発肥料を使用する場合
播種適期は10月中旬

- ① 播種適期 **10月10日～20日** ※ 排水溝に水がない時期に播種する！
- ② 播 種 量 （標準） ※ **目標苗立ち数：150～180本/m²**

播種方法	10a当り播種量	備 考
条 播	7kg	条間25～30cm、播種深3cm

※10月上旬播種となる場合：細麦粒の発生防止のため、播種量を6kg/10aとする。

※10月下旬以降の播種となる場合：目標苗立ち数の確保のため、播種量を8～9kg/10aとする。

6. 除草剤散布

① 播種前の茎葉処理

前作で雑草の発生が多かったほ場で実施

薬 剤 名 (いずれか)	10 a 当り 使用量	希釈水量	使用回数	備 考
プリグロックス L	600～ 1000ml/10a	100～ 150L/10a	4 回以内	耕起前、雑草茎葉散布 播種 7 日前までに散布
ラウンドアップ マックスロード	200～ 500ml/10a	通常散布 50～100L/10a	3 回以内	

※ 畦畔等のほ場内周縁部の雑草には、ラウンドアップマックスロードが使用できます。
ただし、播種前のほ場内散布も含めて 3 回までです。

② 播種後土壌処理（覆土しない場合は使用しない）

使用時期：播種直後から発芽前まで

	薬 剤 名 (いずれか)	10 a 当り 使 用量	使用回数	備 考
粒 剤	トレファノサイド粒剤 2.5	4 ～ 5 kg	2 回以内	播種直後の土が湿った状態で散布すると 効果が高い
	キックボクサー細粒剤 F	3 ～ 4 kg	1 回	

③ 大麦生育期処理（カラスノエンドウ等難雑草防除対策）

【注意】 雑草の発生状況に合わせて散布すること

薬 剤 名 (いずれか)	散布時期	10 a 当り 使用量	希釈 水量	使用回数	備 考
バサグラン液剤	11 ～ 2 月下旬	100～ 200ml/10a	70～ 100 ℓ	1 回	・ 2 ～ 3 葉期の広葉雑草対象 ・ 雑草発生初期。収穫 90 日前まで。
ハーモニー DF (水和剤)		5～10 g	100 ℓ	どちらか 1 回	・ 一年生広葉雑草およびスズメノテッポ ウ 5 葉期までが対象 ・ 播種後～節間伸長期まで
ハーモニー細粒剤 F	11 月	4 ～ 5 kg	—		・ 一年生広葉雑草およびスズメノテッポ ウが対象 ・ 雑草発生前～発生始期 ・ 播種後～麦 3 葉期まで

